

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社フジタコーポレーション  
 コード番号 3370 URL <http://www.fujitacorp.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤田 博章  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 清水 清作

TEL 0144-84-8888

四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	4,255	△12.5	55	70.0	16	—	△39	—
26年3月期第3四半期	4,860	△7.3	32	△65.2	△31	—	△44	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△42.69	—
26年3月期第3四半期	△49.78	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
27年3月期第3四半期	4,543	38.52	37	0.8		38.52		
26年3月期	5,135	23.67	21	0.4		23.67		

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 37百万円 26年3月期 21百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,637	△11.6	141	75.7	54	—	△7	—	△8.97

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期3Q	982,200 株	26年3月期	891,600 株
27年3月期3Q	79 株	26年3月期	— 株
27年3月期3Q	926,498 株	26年3月期3Q	891,600 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間のわが国経済は、政府の経済・金融政策により円安や株価上昇等、緩やかな回復傾向にあるものの、4月の消費税増税後の消費の低迷や円安に伴う物価上昇等、先行き不透明な状況であります。

このような経済状況のもと、当社は全ての店舗の照明のLED化をはじめとする販売管理費の削減、不採算店舗の閉店や譲渡等を進めて収益の改善に努めてまいりました。店舗運営におきましては、web媒体を活用した情報発信を適時に行き、業態・店舗及び商品の認知度向上に努めてまいりました。

当第3四半期累計期間における店舗展開につきましては、2店舗の出店、8店舗の閉店、1店舗を譲渡し、当第3四半期会計期間末現在の当社の展開業態は20業態（前年同四半期、21業態）、稼働店舗数は89店舗（同101店舗）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高4,255百万円（前年同四半期比12.5%減）となり、売上原価及び販売管理費等の適正管理に努めた結果、営業利益55百万円（同70.0%増）、経常利益16百万円（前年同四半期、経常損失31百万円）となりました。不採算店舗の閉店を加速したことにより、店舗閉鎖損失21百万円の特別損失等を計上し、四半期純損失39百万円（前年同四半期、四半期純損失44百万円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### ① 飲食部門

当第3四半期累計期間における飲食部門におきましては、フランチャイジー事業においてはフランチャイズ本部主導の期間限定商品の販売や販売促進活動を、オリジナルブランド事業におきましては、定期的な季節商品の提供やweb媒体を利用したタイムリーな販売促進活動を行って、リピーターの獲得や客単価増に努めてまいりました。

飲食部門の店舗展開におきましては、2店舗の出店、4店舗の閉店、1店舗を改装し、当第3四半期会計期間末の店舗数は70店舗（前年同四半期、75店舗）となりました。

当第3四半期累計期間の売上高は3,255百万円（前年同四半期比4.1%減）、セグメント利益114百万円（同127.0%増）となりました。

#### ② 物販部門

当第3四半期累計期間における物販部門におきましては、フランチャイジー事業・オリジナルブランド事業共に、トレンドを意識した商品のディスプレイや販売促進活動を、また、店頭販売と並行してインターネット通信販売に力を入れ、店舗の営業時間外や厳冬期の売上獲得に努めてまいりました。

物販部門の店舗展開におきましては、1店舗の譲渡、4店舗を閉店し、当第3四半期会計期間末の店舗数は19店舗（前年同四半期、26店舗）となりました。

当第3四半期累計期間の売上高は999百万円（前年同四半期比31.9%減）、セグメント損失58百万円（前年同四半期、セグメント損失17百万円）となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

当第3四半期会計期間末における流動資産は1,180百万円となり、前事業年度末に比べ552百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が523百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は3,362百万円となり、前事業年度末に比べ35百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産のうち、敷金及び保証金が43百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は4,543百万円となり、前事業年度末に比べ591百万円減少いたしました。

#### （負債）

当第3四半期会計期間末における流動負債は1,090百万円となり、前事業年度末に比べ192百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が123百万円、1年内償還予定社債が118百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は3,415百万円となり、前事業年度末に比べ415百万円減少いたしました。これは主に社債が308百万円、長期借入金が93百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、4,505百万円となり、前事業年度末に比べ608百万円減少いたしました。

#### （純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産合計は37百万円となり、前事業年度末に比べ16百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が39百万円減少したものの、資本金、資本準備金がそれぞれ22百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は0.8%（前事業年度末は0.4%）となりました。

(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成26年6月2日の「平成26年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、不採算店舗の閉店及び譲渡を行うとともに、インターネット通信販売やwebクーポンの発効、LINE等のインターネット媒体を利用した販売促進活動のほか、店舗におきましては、サービス業の基本に立ち返り、Q(品質)・S(サービス)・C(清潔さ)の再点検や季節や流行を意識した商品を提供し、既存店の売上増に努めてまいりました。加えて、人件費及び地代家賃等の販売管理費の徹底削減、設備投資の抑制、経営改善諸施策を推進してまいりました。

前事業年度及び当第3四半期累計期間に不採算店舗の閉店による店舗数減や事業譲渡により、当第3四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ12.5%減となったものの、営業利益、経常利益は黒字となりました。

しかしながら、前事業年度に引き続き、当第3四半期累計期間に店舗閉鎖損失等の特別損失49百万円等を計上したことにより、四半期純損失39百万円、純資産37百万円となりました。また、当社の有利子負債は3,747百万円と総資産の82.5%を占め、手元流動性に比して高水準であります。こうした状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、以下のとおり対応策を実施しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められません。

事業面におきましては、前事業年度に策定した経営改善計画に基づき、不採算店舗の処理、配置転換等による効率性を追求した人件費の削減並びに利益部門への新規投資等を計画通りに遂行し、より安定的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを獲得し得る体制を構築してまいります。

資金面におきましては、当社の主力取引銀行の支援のもと、取引金融機関に対し、平成27年5月までの長期借入金の元本の返済条件変更を要請し、全取引金融機関から同意を頂いております。当該金融支援につきましては、経営改善計画の確実な遂行により、その後も継続的な支援を受けられる見込みであります。

当該金融支援と経営改善計画の確実な実行により、財務体質の改善を図るとともに、経営基盤を強化し、より安定的な営業利益及び営業キャッシュ・フロー並びに当期利益の獲得に向け邁進してまいります。

## 4. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	895,241	371,641
売掛金	232,080	268,648
商品及び製品	425,158	355,671
原材料及び貯蔵品	52,697	63,448
その他	127,935	121,104
流動資産合計	1,733,114	1,180,513
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,410,159	1,408,382
工具、器具及び備品(純額)	142,912	152,539
土地	573,649	573,649
その他(純額)	60,524	52,362
有形固定資産合計	2,187,245	2,186,933
無形固定資産	149,595	148,761
投資その他の資産		
投資有価証券	220,478	241,917
長期前払費用	29,231	18,024
敷金及び保証金	782,941	739,078
その他	53,633	53,181
貸倒引当金	△25,000	△25,000
投資その他の資産合計	1,061,286	1,027,201
固定資産合計	3,398,127	3,362,896
繰延資産	4,167	—
資産合計	5,135,408	4,543,410
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	173,446	180,551
1年内償還予定の社債	118,600	—
短期借入金	594,496	471,021
1年内返済予定の長期借入金	42,439	—
未払法人税等	9,702	8,649
店舗閉鎖損失引当金	16,488	10,895
資産除去債務	37,000	24,458
その他	291,019	394,812
流動負債合計	1,283,192	1,090,388
固定負債		
社債	308,500	—
長期借入金	3,334,830	3,241,424
資産除去債務	3,300	3,318
その他	184,476	170,441
固定負債合計	3,831,107	3,415,185
負債合計	5,114,300	4,505,574

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	388,153	410,667
資本剰余金	47,702	70,216
利益剰余金	△428,896	△468,450
自己株式	—	△53
株主資本合計	6,959	12,380
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,595	25,455
繰延ヘッジ損益	△3,446	—
評価・換算差額等合計	14,148	25,455
純資産合計	21,108	37,835
負債純資産合計	5,135,408	4,543,410

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	4,860,729	4,255,024
売上原価	1,897,218	1,554,290
売上総利益	2,963,510	2,700,733
販売費及び一般管理費	2,930,692	2,644,956
営業利益	32,818	55,776
営業外収益		
受取利息	376	331
受取配当金	2,913	2,706
不動産賃貸料	126,234	122,322
受取保険金	1,476	2,970
その他	1,671	5,346
営業外収益合計	132,673	133,677
営業外費用		
支払利息	83,773	64,783
不動産賃貸原価	102,068	104,504
その他	11,448	3,588
営業外費用合計	197,290	172,876
経常利益又は経常損失 (△)	△31,797	16,578
特別利益		
固定資産売却益	1,356	—
資産除去債務戻入益	6,727	1,000
特別利益合計	8,084	1,000
特別損失		
固定資産除却損	47	309
店舗閉鎖損失	12,921	21,515
社債償還損	—	17,291
契約解除損	—	10,725
特別損失合計	12,969	49,841
税引前四半期純損失 (△)	△36,682	△32,262
法人税、住民税及び事業税	7,700	7,291
法人税等合計	7,700	7,291
四半期純損失 (△)	△44,383	△39,554



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年9月17日付で、株式会社ダスキン、株式会社ラックランド、株式会社ランシステム、株式会社ベビーフェイス他1名から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ22百万円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が410百万円、資本準備金が70百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	飲食	物販	四半期損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	3,393,513	1,467,216	4,860,729
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,393,513	1,467,216	4,860,729
セグメント利益又は損失 (△)	50,398	△17,579	32,818

(注) セグメント利益又は損失 (△) は、損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	飲食	物販	四半期損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	3,255,147	999,876	4,255,024
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,255,147	999,876	4,255,024
セグメント利益又は損失 (△)	114,390	△58,613	55,776

(注) セグメント利益又は損失 (△) は、損益計算書の営業利益と一致しております。